

318-5841



1200501374369

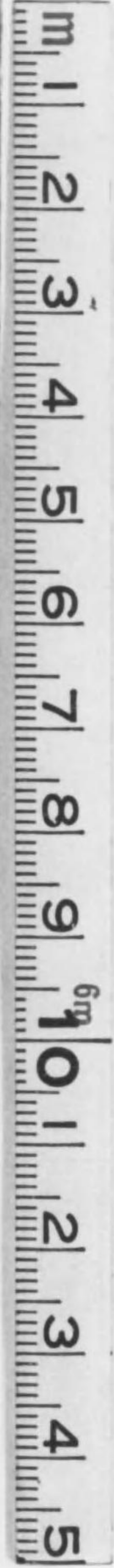
8

4

石井縣郷土書目

石橋重吉編

第二輯



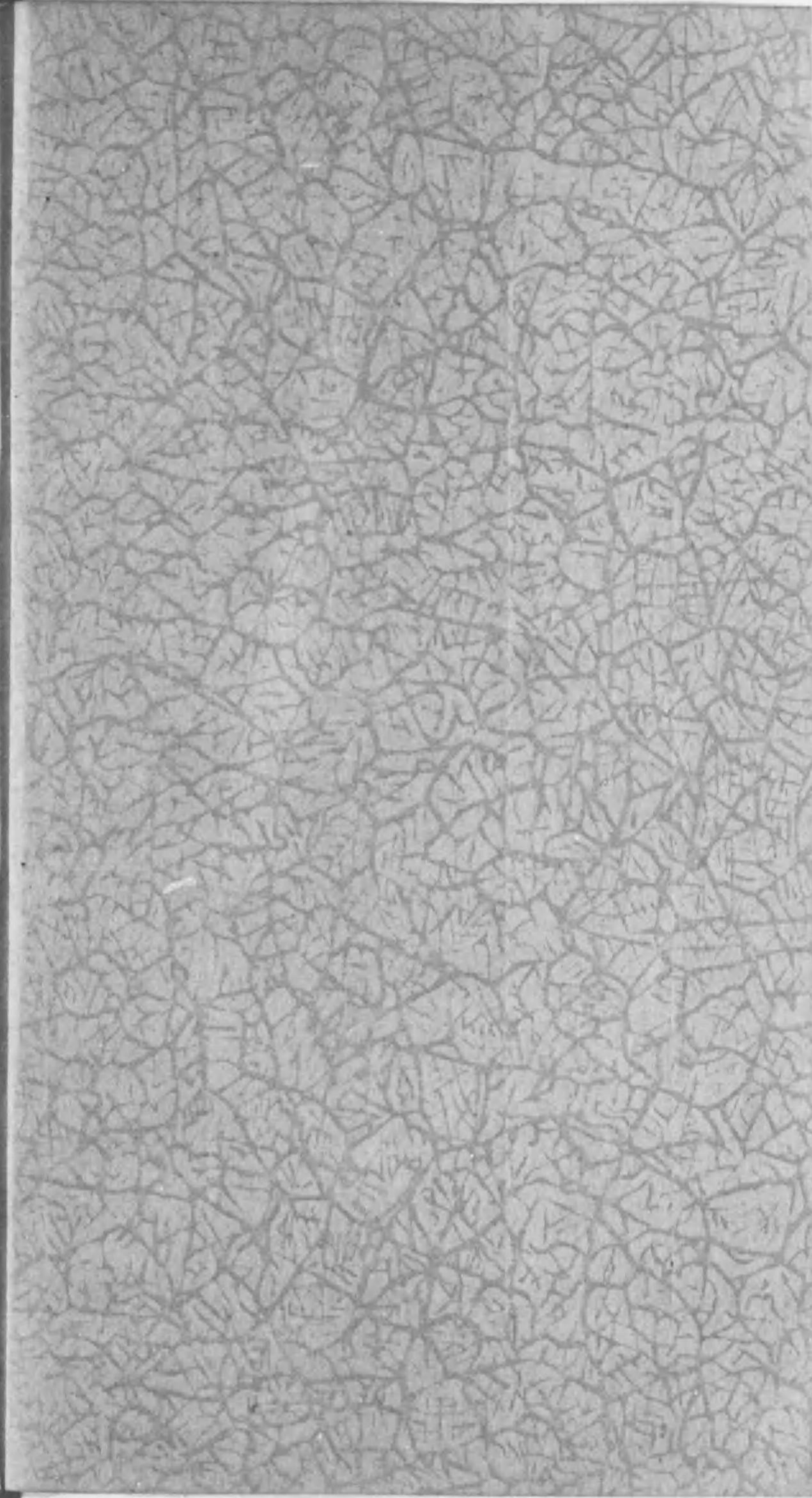
始



福井圖書館長 石橋重吉編

福井縣鄉土書目 第二輯

福井圖書館發行



福井圖書館長 石橋重吉編

發行所寄贈本

福井縣郷土書目 第二輯

福井圖書館發行





目次

雑誌、會誌における郷土資料	.....	三九
附録	.....	三三
軍事學	.....	三〇
工業	.....	二九
産法政・經濟	.....	一九
地理	.....	一七
傳記	.....	一九
歴史	.....	一八
藝術學	.....	三三
言語學	.....	三二
宗敎	.....	二二
神道	.....	一一
總記	.....	一一

讀書破二萬卷  
下筆有如神

杜甫

はしがき

318-574  
昨年四月本館創立二十五周年記念に、「福井縣郷土書目」を發刊して同好者に願つたところ、郷土研究の手引になると同好者から好評を博した。爾來一年有半、編者は更に從來の補遺と新刊の書目を併せて凡六百六十一種を得たので、之を分類して第二輯とし、例により之を本館に提供して、本年の讀書週間に又同好者に願つことにした。

これで、本縣郷土書目は前後兩輯を通じて凡二千二百九十八種に上つた。編者は尙進んで其他古今圖書の内容につき郷土資料の索引を作つて見ようと考えたが、資料調査の方法を熟知される先覺者には、寧ろ「釋迦に說法」の如き感がある。されど、先覺者必ずしも二酉の富、五車の書の持主ではない。自家の書齋に求めて得ずんば圖書館のカードを検索するの勞がある。故にこれが棊を作つて置くも、萬更無用の閑事業にはならぬと思ひ、今回は縣内發刊の雜誌、會誌から郷土資料の題目を蒐集してこれを附録とした。

古來讀書人中には、頗る目錄學者を輕蔑する風習がある。それは、一知半解に安んじて徒に博覽強記を衒ふからである。天下の學者皆目錄學者たることは決して望ましいことではない。されど、少數の目錄學者は生字引として、いづれの世にもいづれの處にも存在する

ことは誠に重寶である。

少くとも、圖書館に従事する者は、古今圖書の目録に精通とまではいかなくとも、其擔當の部門に對する目録學の用意がなくてはならぬ。目録は實に圖書館の生命である。特に晩近郷土研究の旺盛になりつゝある時に、郷土書目を編輯して檢索者の便覽に供することは、最も時代の要求に適する求智的事業といはねばならぬ。

編者は過去數年來一日として此事業に留意せぬ事はない。古刊、新刊を論せず、手記、複寫を分たず、一種の書目を發見することに、直にノートに記入して置いたが、此事業も大概一段落を告げるやうになつた。固より編者一人晩年の私的事業であるから、勿論、誤脱の譏を免れぬ。故に同好者幸に編者一人の志を憐み、此事業の完成に指教を賜はらんと、是れ切に望むところである。

昭和十年八月 白蓮秋潭を照す福井圖書館の書窓にて

吹榮學人

石橋重吉識

# 福井縣郷土書目 第二輯

石橋重吉編



記

冊數

編者

刊行年

備考

一 福井圖書館 昭和九

同 一〇

德

佐原 秦 岳

明治五、著者丸岡白道寺住職  
後傳通院住職

三 則 私 言 一

岡崎左喜介抄出

和紙四枚綴

許孝行ノサトシ 一

池田

觀

明治一五

修身小學讀本

神道

○若越神祇志

大日本史卷  
二五九(志)

宗教

別源語錄 一  
 親鸞聖人道德法輪集 七  
 佛敎問答 一  
 印度紀行 一  
 佛敎畧話 二  
 世宗敎畧話 二  
 和漢高僧傳 三  
 十七條憲法ノ翻譯ト解説 一  
 末代のしをり 稿本 一  
 問對寸抄 同五七

別源和尚 越前人、大安寺藏  
 米ヲ立ルゴツト 寶永八、卷第一に越前六ヶ寺、卷第二に越後八房梅三度栗の紀事あり  
 今ナルゴツト 譯著 明治一九  
 南條文雄 同二〇  
 禿了敎 明治二六  
 織田得能 同二七  
 北條尊善 大正六  
 甘蔗普熏 同

語學

大笑話 同五  
 截舌雀餘暇 同〇  
 梅圃獨語 同四

同同同

ホルスト、ブック

足羽縣活版局翻刻 明治五

○獨乙會話書

二五三三年(明治六) 福井醫學校翻刻

○日本漢字學史 一

芳賀真咲 明治一六  
岡井慎吾 昭和九

文學

四書通辨 一八卷  
 四書略圖 解 二二卷  
 五經傍訓 一一本卷

伊藤元基 元祿  
 大原武治 同  
 清田儋史

○山尋草海尋草 各一卷  
 四書引蒙畧圖解 一  
 丹丘詩話 三  
 庚申風月集 寫一  
 ○韓詩外傳 五十卷  
 ○小學訓譯稿本一〇  
 四季百吟評注 自筆本一  
 ○三國小女郎物語 一  
 仇湯尾時孫杓子 一  
 追袖の氷集 一  
 官唐宋八大家文讀本 手澤本一六  
 ○孝經 一  
 越路の日記 一

伊藤錦里 元文四自序、天明五刊行  
 遊翠館集附錄  
 (以上四種福井藩明善堂藏版)  
 大原武清 承應二自序、越前福井人  
 芥川丹丘 寛延四、日本詩話叢書第二卷に收む  
 寛延頃、福井藩尊詠及群臣諸作集、元文  
 五年庚申伊藤龍洲序、淺見置良奉命譜錄  
 寶曆九、武生人  
 韓山宗成訓點 著  
 清田儵史 文政一三  
 桃隣舍文辰 續帝國文庫第一七篇の内、又京山全  
 山東京山 集の内  
 十遍舎一九 天保四  
 栗田部社中 頼山陽の評語を書入す  
 橋本左内 御用御書物所 越前福井帶屋喜平治板  
 富田禮彦

四

○日下部太郎手澤原書 一四  
 ○順正書院詩 一  
 ○順正書院記 一  
 福井より江戸迄所浮名 寫一  
 作文語類 一  
 初等書取必携 一  
 新小學中等科讀本 三  
 羽江詞藻 一  
 小松の露 一  
 歌人としての曙覽翁小論 二  
 橘曙覽の歌集 二  
 曙覽の詠史の類につきて 一  
 橘曙覽と富田禮彦 一

新宮貞亮 明治二、福井藩士、書院洛東にあり  
 同  
 本多鼎介 明治三  
 同 一〇  
 木下兼祐 同 一五  
 同 一六  
 日置居勝 同 一六  
 野村啓次郎 明治一七年九月より同一八年五月まで  
 の六篇綴、船崎吟舎發行  
 福田源三郎 明治三〇、丹羽長秀墓前獻詠詩歌  
 國語教育第一卷第五、六號  
 秦秀雄 わか竹第一三卷第六、七號  
 福井久藏 明治三九、心の花(竹柏會)第九卷第  
 一〇號  
 竹柏生 (以上三種維新史籍解題)  
 大南越大正一一年第三號

五



北陸文學一〇九	北陸文學會	自明治三十一年七月第一號 至同四〇年七月第一〇九號 主幹 和田柳陰
〇漢詩界四一	同	自大正三年一月第一號 至同六年五月第四一號 主幹 同
歌集和魂	石原真一	昭和五、ボト+▲叢書第一〇篇
〇郷土文學年表	久保田 薫	同 七、福師「啓成詞林特別號郷土研究」の内
〇郷土に於ける民話、俚語及童謡	菅生直巳	同
〇瀧谷寺道雅	山田秋甫	昭和八
〇北陸萬葉集古蹟研究	鴻巢盛廣	同 九
遊女哥川	邦枝完二	同 九、俳句研究六月號凡八頁
哥川俳句補遺	石橋重吉	同 九
〇朱人詩抄	横山貞治	同 九、朱人叢書第一篇
〇桃の花かげ	松尾俊一	同 九、三國人、童謡集
〇薩越關越航日記	汾陽光二	同 一〇、慶應二年二月御側役格長崎御 附人兼務汾陽治郎右衛門越藩來航日記
〇百二十一年前越前修驗日記	野田泉光院	同 一〇、日本九峯修行日記文化十二年 の内

〇開扉記念句集	河澀山慶讚會	同 一〇
〇色紙塚記	和田幽玄	同 一〇
〇道雅上人詩文集	皆川政次	同 九、亡父建碑記念
〇記念録	生駒正三	同 一〇、橋樑覽の逸事あり
〇爐邊茶話	河津祐一	同 一〇
〇琴廼舎家集	石橋重吉	同 一〇
〇感前文辰狂歌集	徳富蘇峯	明治三八、民友社讀書餘録
「蘭學事始」を読む	森 銑三	昭和三、歴史地理第五一卷第六號、 後見草は史籍集覽に收む (以上二種維新史籍解題)
杉田玄白の後見草	南條文雄	昭和二
懷舊錄	永井 環	同 一〇、亡娘三周忌記念
〇松子の手紙	千秋 慎一	明治七、武生人
書牘階梯	本多 鼎介	同 一〇
作文語類	横田 秀	同 一、平澤軒梓
小學必需作文階梯	木下兼祐	同 一五

小作	文階梯	一	同	同一七、岡崎出版
小語	記例題	一	同	同一六、文明堂廣濟堂合梓
日用書	讀文	一	同	同一七、平澤出版
初等女子	日用文例	一	山口重勝	小濱師範中學助教諭
西遊	見聞記	一	中山義樹	明治二六
變人	おけらの半生	一	蚯蚓子	友田宜剛の自叙傳

### 藝術

○桃	天堂印譜	一	貫名海屋	福井藩士印譜
山田公雪	宛碑並碑陰	一	小林嘯峯	法帖、公は粟田部山田清兵衛の先祖 碑は奈良縣磯城郡安倍村山田にあり 福井藩刻
萬安橋	法帖	一	杉原祥造	明治三四、三五大垣青年會誌第二一 、二二、二三、二四輯附錄
越前康繼	之研究	二		
雪爪	山高水長圖記鈔	合本一		

### 歴史

○本縣著名美術家一覽表	一	天井陸三	昭和七、福師「啓成園林特別號郷土研究」の内
○日本美術史	一	源豊宗	昭和八
郷土史考	琵琶歌集	山本體水	同九
小學校に於ける唱歌教育の實際的研究	一	福井縣下聯合教育研究會	同 一〇
○越前領知目録	一	大原武清	寛文四、續々群書類聚寛文印知集 卷第一の内
新撰豊臣實錄	寫本漢文 三四	岡田僑	寛文五、長男武柔序、越前福井人 嘉永三、日本外史補卷九
○朝倉氏興亡	一二	松平春嶽公朱批	每卷朱批署名、文久紀元七月十八日 讀了あり
○宋元通鑑	一二	縣社岡太神社	明治一三、版木神社藏
○校訂六國史	三九	伴信友	同 一六、佚存書房印行
○水戸藩黨爭始末	二	無名氏	明治二十六年十一月念五の序あり 史籍雜纂卷四の内

大日本史卷三七〇(表)

同 卷三八四(表)

○若越臣連造表

○若越國郡司表

越前年譜史料稿本二七

推驗叢語 同 八

○繼體以下三皇紀の錯簡を辨す

○福井縣下古城址踏査談

○朝倉始末記考

越前國氏族考

○舊藩政時代に於ける各藩倉庫の調査

葉原日記

景岳先生墓碑

福井正善寺の油屋

縣内の珍妙な塚墓

甘蔗普熏

同

平子鐸嶺

大類伸

山本元

菅野七郎

加越能史談會

石橋重吉

同

同

越前に於ける事物方言等の起原沿革を考證せるもの

明治三八、史學雜誌第六篇第六七號

大正六、史學雜誌第二八篇第一一號

大正七、史學雜誌第二九篇第三號

系譜と傳記大正一〇年三月號

昭和七、編師「啓成詞林特別號郷土研究」の内

昭和七、同八

同六、一一、一二

同七、四、一一、一二

本縣の生祠生墓と死後神明に祀られた人達調

三

同

同七、四、二二、二四、二六

(以上四種 福井新聞)

○中村家小史

越前郷土物語四種

敦賀郷土史談

歴代天皇聖蹟御遺蹟調

並皇室關係

文藝復興史の研究

○繼體天皇と越前

○福井縣考古雜報

○福井市順化青年團十年史

○景岳會小史

中村九郎右衛門

石橋重吉

山本元

福井縣

朝日融溪

石橋重吉

齋藤優

福井市順化青年團

景岳會

同九、今立郡中河村の舊家

同九、日本郷土物語上巻の内

同二〇、各市町村長回答書綴

同九

同二〇

同二〇

同二〇

同二〇、附録講演集

傳記

○若狭孝義錄 二

享和元、官刻孝義錄卷二六若狭七十五人、同卷二七越前八十一人を收む

松平治 績 概要  
 正直君  
 杉田仙十郎翁之傳  
 鳥山 崧 岳 傳  
 維新の際紙幣發行に關する事實  
 由利子爵の經歷  
 由利公正君舊政時代の實歷  
 子爵由利公正君晩年の懷抱  
 安政記事稿本  
 松平春嶽公履歷略  
 松平春嶽公の文章並逸事  
 松平春嶽公を偲び奉る  
 春嶽松平慶永公の生祠木立神社  
 橋本左内事跡  
 齋藤信太郎 明治二四  
 金崎 賢 同四四、道雅上人の記事あり  
 浪華人物誌卷一儒家の内  
 由利公正 明治二六、史談會速記録第九輯  
 同 三〇、同 第五九輯  
 同 三七、同 第一四〇輯  
 大正一五、同 第三五九輯  
 (以上四種 維新史籍解題)  
 大正一五、維新日乘纂輯(日本史籍協會)第三の内  
 明治三一、舊幕府第二卷第一、二、三號  
 同 三二、舊幕府第三卷第五號  
 昭和五、福井評論第六卷第一(一)號、本草學論叢の内  
 同七、本邦生祠の研究の内  
 (以上五種 維新史籍解題)  
 明治三九、東四(晚成社)第六號  
 中根雲江

橋本左内先生  
 橋本景岳先生  
 橋本左内全集を讀む  
 (天才南越に現はる  
 橋本左内先生を憶ふ)  
 福井に洋風學校の創設せられた  
 動機と橋本左内の國體論  
 橋本景岳先生  
 同  
 橋本景岳  
 幕末英傑 橋本左内  
 附正四位橋本左内小傳  
 附幼時ノ著啓發錄  
 ○偉大なる橋本左内  
 梅田源次郎先生略傳  
 雲濱先生の勤王論  
 加藤 斌 同 四一、日本及日本人第四九六號  
 有馬 祐政 同 同  
 福本 日南 同 四三、日南集の内  
 有馬 祐政 大正七、日本及日本人元旦號  
 上田 恭輔 昭和元、明治文化研究(新舊時代)第三  
 年第七冊  
 徳富 蘇峯 昭和四、時勢と人物(民友社)の内  
 同 六、蘇峰先生古稀祝賀知友新稿  
 同七、改造一五卷第一號、武士道の復  
 活の内  
 (以上九種 維新史籍解題)  
 明治三三  
 春嶽公作の傳、立軒の叙、立志五訓を  
 收む  
 昭和八、増訂本、初版大正一三  
 滋賀 貞 明治二八名家談叢第四、五號  
 山田 富子 同 二九、同第六號  
 山田 時章

梅田先生紀念碑  
 梅田先生行狀  
 九十二翁と語る  
 梅田雲濱先生の地位  
 梅田雲濱先生  
 雲濱先生の墓に就て  
 雲濱先生の學統と事業  
 梅田雲濱と長州  
 安政大獄の魁首梅田雲濱  
 淨貞尼と梅田雲濱  
 梅田雲濱逮捕に就ての疑問  
 梅田雲濱逮捕日に就て  
 同  
 再び梅田雲濱逮捕に就て  
 梅田雲濱の詩文に就て

武陽生 同三〇、同第二三號  
 西川正義 同三〇、同第二八號  
 滄海公 同四一、日本及日本人第四九六號（谷森臣善の梅田雲濱に關する談話）  
 中村勝麿 同四一、國學院雜誌第一四卷第一一號  
 山田倉太郎 同四一、日本及日本人第四九六號  
 君山生 同四一、同  
 内田周平 同四一、同  
 中平邦平 同四二、同  
 内田周平 大正八、同 春季増刊  
 樋口二乗 同四、同 （郷土光華號）  
 田村吉永 同九、歴史地理第三六卷第三號  
 藤井甚太郎 同一〇、同 第三七卷第二號  
 妻木忠太 同 同  
 同 同 第六號  
 同 同 第六號  
 田村吉永 同 第八卷第六號

梅田雲濱先生勤王の大勳  
 梅田雲濱先生と有馬新七先生に就て  
 梅田雲濱先生湖南塾址碑  
 梅田雲濱先生の遺墨  
 梅田雲濱先生  
 贈正四位杉田玄伯先生の傳  
 憂世家としての杉田玄伯  
 杉田定一昔日談  
 自由民權を叫ぶ  
 本多精一博士小傳  
 第一號履歴撮要並宛獄記事  
 横井小楠思想及信仰  
 大瀧の儒者三田村栗所  
 鯖江の詩人秋元時憲

内田周平 昭和六、東洋文化第八一號  
 佐伯仲藏 同 大東文化第一〇三號  
 藤野岩友 同二、ながらの櫻（四川太治郎編）  
 大正九、日本及日本人第七七八號  
 内田周平 昭和八、  
 小川劔三郎 （以上二十二種 維新史籍解題）  
 明治四四、銀海奇勝（吐鳳堂）  
 田中香涯 昭和三、醫文學第三九號  
 （以上二種 維新史籍解題）  
 銀城逸民 大正五、日本及日本人春季擴大號  
 杉田定一 昭和三、その頃を語る（東京朝日新聞社）  
 緒方竹虎 大正九、經濟訓（本多重雄發行）の巻頭  
 同 一二  
 關方義臣 同 一三  
 大川周明 昭和五、一、一六  
 石橋重吉 同五、二、六  
 同

新田義貞公兄弟の没年及年壽  
俳人石川伯兔

同 同  
同八、二、二八  
同八、七、一六  
(以上四種 福井新聞)

青年松木莊左衛門  
岡倉天心

法本義弘  
清見陸郎

○雪鴻禪師のこと

鴻雪爪  
同九、傘松八月號

○雪鴻禪師小傳

啓潤會  
同九

○田中和吉氏言行録

石橋重吉  
同九

○故赤尾元一翁

生駒正三  
同 一〇

橋本綱紀

川田剛  
明治三〇、中學新誌

勤王家橋本左内

平井晩村  
同四五、武俠世界

秘録 憂國志士の半面

富山房  
昭和四、四六版一七頁

芳賀博士のことども

有朋堂  
同、四六版一七頁

梅田雲濱遺稿並傳に就いて

富山房 同 一〇、國漢一三號

地理

○霞城の影

丸岡町  
明治四二、行啓記念

グリフィス先生

佐々木忠次郎  
昭和二、科學智識第七卷第二號

グリフィス老博士と語る

上田恭輔  
同元、明治文化研究(新舊時代)第三年第五冊

グ氏の日本に對する熱愛

中瀬古六郎  
同二、書物禮讚第六號

グリフィス博士訪問記念寫真帖

福井市役所  
同二、(以上三種 維新史籍解題)

○若越國郡志

園田一龜  
同四、大日本史卷三〇三(志)

○再び韃靼漂流記に就て

同  
一九三二年(昭和七)奉天圖書館叢刊第二冊

笏谷史勝

竹内秀士  
一九三三年(昭和八)

丹巖洞

梅田稔  
昭和九

○再び韃靼漂流記に就て

同

○若越國郡志

同

○再び韃靼漂流記に就て

同

笏谷史勝

同

○花月史蹟名勝雜記	一	生駒正三	同九
○大日本讀史地圖	一	吉田東伍	同九
越前國七郡全圖	一	青田伊人	補修 同 一〇
○十萬分福井縣地圖	一	富田知剛	著 同 一三
○滿洲國巡遊の印象	一	本多鼎介	閱 同 一三
國史地圖	二	福師郷土研究部	昭和八
地理初步	一	伊東尙一	同 一〇
新撰敦賀一覽圖	一	川端太平	同
若狹國地理書	一	師範學校	明治七改正、十二枚綴 敦賀佐々木慶助藏
福井縣地理小誌	一	高城正男	同 一七、日比谷圖書館藏
小學福井縣誌	一	奧田榮世	明治一四、高知縣人、附越前國敦賀郡
福井縣小地理	一	三屋大五郎	同 二三再版
福井縣小歷史	二	高城與五郎	同 二九再版、生徒用
		中野田榮太郎	同 四二、尋常の卷
		同	同 四二

教育

○校

訓 一

鯖江女師 昭和一〇

法政・經濟

告諭大意	二	敦賀縣	明治元
條約改正論	一	山本鏘	同 一二
國家的社會論	一	斯波貞吉	同 二五
○國際勞動會議に關する報告書	一	松井文太郎	大正九
經世新論	一	杉田定一	明治一三、四六版
興業意見	一		同 一七頃、卷廿一地方七福井縣

產業

獨逸農政要談

一

和田維四郎 明治二〇

養蠶改良法  
○職業讀本  
農事改良談話筆記  
福井縣の米  
福井縣蠶絲業沿革史

佐々木長淳 同二二  
福井市聯合教育會 昭和九  
遠里翁談 明治〇、大野近藤善助印刷配布  
福井縣米穀検査所 大正二  
大日本蠶絲會福井支會 同六

理工

關雨曆談  
上等啓蒙智惠之環  
各府縣金石試驗記  
金石識別學  
微粒子病肉眼鑑定法  
○數學史

石川縣學校 明治二二  
瓜生於菟子 同九  
和田維四郎 同九  
同譯 同  
同 同  
佐々木忠次郎 同二〇  
岸川政道 昭和七、福師「啓成詞林特別號郷土研究」の内

行幸大野郡植物誌  
越前國敦賀郡植物誌  
福井縣昆蟲誌  
算家系圖 寫本一  
籌算提要 一  
筆算知方 一  
測地術書略  
小學算術書 五  
同小學和算 五  
小算類階梯 一  
珠算系階梯 一  
筆算階梯 一

大野郡教員會 同九  
廣比皎 同二〇  
井崎市左衛門 昭和八、蝶蛾之部  
高木善行 (通稱平之丞、鯖江藩士安永年間ノ人)  
中川淳庵 安永、(遠藤利貞著大日本數學史所載)  
伊藤慎藏 慶應三、大野中學藏  
丸山正勝 明治五  
藤田正勝 同五、文部省(小倉金之助著、數學教育史所載)  
瓜生寅寅 明治六、敦賀縣翻刻  
文部省 同官許翻刻  
同屋智 同六、同一二版權免許  
同屋智 同七初版、同八再版  
同佐々木慶助 平澤廣濟堂、小學校用珠算書  
土屋智 同七、敦賀姪子町人  
同土屋智 同二〇頃



小學初等科用算術書	二	柴田卯三郎	明治一五、品川益志堂
新撰算術叢書	三	田口虎之助	同一七、一八、岡崎左喜介、洋算教科書
四則題叢	一	田村積穂	同一七、大野鈴木汗牛堂、大野人
補算術速知	二	土屋智	同 平澤廣濟堂
新撰珠算書	一	梅野三次郎	同一八、品川益志堂、福井ノ人
筆算五千題	二	土屋智	同一八、平澤廣濟堂
幾何書法 <small>附解説</small>	一	市橋捨五郎	同一二、同 小林壽閣、兩人共福井人
實務計算知識	一	塚本文治	大正一一、松色三松堂
修訂商業算術教科書	二	同	同 一一、同
實務計算表及其ノ使用法	一	同	昭和四 同
新商業算術教科書	一	同	同 五 同
近商業算術	一	同	同 同
金融財政一般數理	一	同	同 八 同
高等算術教育の精神と新指導法	二	高木佐加枝	同 八

算術教育の分野と新使命 一 高木佐加枝 同 六

醫學

檢尿必携 一 石塚左玄 明治九

兵事

○行幸御日程並次第書 一 同  
 ○地方行幸先略圖 一 同  
 ○單獨拜謁者名簿 一 同  
 ○列立拜謁者名簿 一 同  
 ○御使御差遣箇所概況 一 福井縣 同 八  
 ○御親閱要領 一 同  
 ○學藝品目錄 一 同  
 ○生物目錄 一 同  
 ○天覽物產目錄 一 同

昭和一八、大演習福井市記錄の内

○越前に於ける朝倉一族の戦闘に就て	野村勘左衛門	昭和八、一〇、二四、坂井郡伊井村野
○越前に於ける新田義貞の作戦について	新田長太郎	外統監部に於ける御前講演 同八、一〇、二六、大本營に於ける御前講演
○福井石川兩縣下に於ける陸軍特別大演習記録	名古屋鐵道局	
○御親閱感激録	福井縣	同九
○行幸並大演習衛生施設記録	同	
○榮光録	福井新聞社	同
○行幸記念誌	福井高工	同
○獻芹集	福井縣教育會	同、小中等學校青訓男女青年團員の大演習に關する詞藻
○行幸啓成詞林	福師校友會	同九
○陸軍特別大演習記念寫眞帖	福井縣	同
○同	陸軍統監部	同
○昭和八年陸軍特別大演習並	福井市役所	同 一〇
○地方行幸福井市記録	福井縣	同
○同	福井縣	同

### 附 錄

#### 雜誌會誌における郷土資料

新舊の新聞、雜誌等に記載された郷土資料を全部調査することは困難につき、現在續刊中の左記五種の雜誌、會誌の創刊號から本年九月までの分につき主要な題目を作家別に蒐集した。

武生郷友會誌 五六	武生郷友會
-----------	-------

自明治二十二年第一號  
至昭和九年第五十六號

立敬館規則並序	明治二三	耕雪松井君墓誌銘	明治二四
堀江徳山	同 二四	橋本左内の三條内府に上りたる建白書	
竹内霞堂、三井養安、鳥山松岳、田中適所の各小傳	同 二六	其他	
本多家傳書三百四十五章	同 二六、二七、二八、二九、三〇	本多家男爵家系略	同 二六
舊府中藩學制	同 二七	福井絹織物の沿革	同 二六
松本晚翠君之碑	同 三〇	谷口安定小傳	同 三〇
富正公二百五十年佛事及祭禮	同 三二	渡邊洪基君幼時の話	同 三一
創立當時の武生中學狀況	同 三二	久世但馬の亂、大阪陣の事、大阪亂聞書	同 三二
土肥淳朴君傳	同 三六	故渡邊洪基先生傳	同 三五
		齋藤郁二郎君傳	同 三六

故渡邊洪基傳編輯資料	同元、元	前田松關先生傳	同四一
内田耕雨君之碑	同四二	大鹽八幡宮匾額	同四二
越府城縮圖	同四三	本多家江戸屋鋪略圖	同四三
齋藤修一耶先生履歷書	同四三	德崇祠堂	同四四
大正二年武生大火	大正二	萬延元年頃府中藩屋敷割圖	同四四
府中藩士席次名簿	同四	石渡宗伯	同四六
貞享半藏前府中御家中禮式班覺其他	同七	武生騒動五十年記念號	同四八
本多精一博士追悼號	同九	赤穂義士遺物記	同四〇
府中藩の北海道開墾顛末	同〇	栗塚省吾氏追悼號	同四〇
渡邊悳二耶小傳	同〇三	安立七郎畧傳	同四三
故松本源太郎君官歴	同〇五	寛政十二年御參府御供立御人數留	昭和二
故南條文雄君小傳	同〇三	故庄司義基君官歴	同〇三
本多家々格問題に關する文書	同〇四	故石渡秀實君追悼録	同〇六
故土肥博士追悼號	同〇七	蛟工せる藤島神社	同〇八
三田村甚三郎氏追憶談	同〇九	以上史料雜報其他に據る	大正四
奥村眞筑先生	明治二五	府中文學斷片	同〇七
石渡宗伯	同〇六、七	創立時代の進修小學	同〇一
森余山先生に就て	同〇一	堺町騒動に關する文書	同〇一四
南山奥村先生の贈位	同〇一三		

私と齋藤先生	同〇一四	本多副香公と双鶴の圖	昭和四
奥村先生功德碑由來記	同〇六	松井耕雪翁藏書點檢録	同〇六
記録に残れる府中二大火	大正一五	本多家の古墳について	昭和五
亡き父のことゝも亡父追悼記	大正一五	以上 石渡 秀實	
故渡邊洪基先生小傳	昭和二	以上 松本 秀彦、眞彦	
上三春嶽公一論レ教ニ武田伊賀等死ニ書	明治四一	以上 渡邊信四郎	
武生にて發見せる諸儀象辨言寫本に就て	昭和二	與三坂本龍馬ニ書	同四〇
三田村黄雲小傳	同〇六	以上 關 義臣	
千代鶴神社に就て	同〇七	萬國工業會に提出されたる諸儀象辨言に就て	同〇四
瑩山禪師御降誕地に就て	大正四	以上 關 義孝	
武生史雜片	同〇八	府中御頼火消に關する文書	同〇八
護國山國分寺由緒	同〇一、二	刀匠千代鶴	同〇六
老生常談	同〇三、四	藤垣神社千鳥屏風について	同〇三
		以上 源 豊宗	
		以上 村田忠三郎	
		以上 松本源太郎	

南山贈位奉告祭の記  
武生文學溫故叢談

同 一三  
明治二三

以上 奥村 良筑

二八

南越花筐會誌 二

南越花筐會

自大正 元第一號  
至昭和 一〇第二一號

梅田 雲濱 惠迪齋  
梅田 雲濱 に就て

大正 二  
同 四

坪 田 孫 助 氏  
金剛山粟生寺大藏經の修理に就て

同 三  
同 六

景 岳 忌  
竹根蟬と化すに就て

同 五  
同 六

栗田 部 塾 に就きて  
以上 伊藤 百助

同 五

和州山田寺につきて  
南嘉樓について

大正 二  
同 七

漢 文  
大矢家と淨春寺の碑文

昭和 七  
同 八

今立郡郷土野外植物の研究  
郷土野外植物の研究

大正 一〇  
昭和 一〇

日野山の植物採集  
以上 石橋 重吉

同 一

文政異聞 栗田部村の怪談 福井新聞轉載  
部子神社事蹟考

大正 七  
同 八

大矢家と淨春寺の碑文  
惠迪齋村塾

昭和 七  
同 八

縣社岡太神社五十年大祭典雜感  
繼體天皇千四百年祭神輿渡御圖

昭和 六  
同

以上 島 連太郎

若越醫談 二七

若越醫學會

自明治三八年第一號  
至昭和九年第二七號

奥 村 良 筑

明治三八、四〇

杉 田 文 白

同三八、四三、四四

橋 本 左 内

同 三八

杉 田 成 卿

同 三八

松 原 慶 輔

同 三九

高 桑 實 履 歷 書

同 三九

關 學 事 始

同三九、四〇、四一

中 川 淳 庵

同 三九

小 石 元 俊

同 四〇

奥村南山墓を弔す

同 四〇

三 井 養 安

同 四一

橋本綱常先生

同 四二

橋 本 長 綱 墓 表

同 四三

岩 佐 純

大正 元

景岳先生と贊山子爵

昭和 三

奥村先生功德碑由來記

同 六

細井東陽と四診備要

大正 五

以上 土井 慶藏

文政年間福井藩における解剖の記録

明治 三九

以上 笹岡 芳名

同 陳 列 品 目

同 四一

杉田玄白先生贈位祝賀會記事

同 四一

笠原白翁を中心とせる本邦種痘所の創始

昭和 五

景岳先生五十年祭

同 四一

福井藩各病院醫員名列

昭和 六

牛痘問答 嘉永三木版

昭和 六

明治四年辛未九月改

以上 雜錄其他に據る

同 八

二九

自昭和三年二月創刊號  
至同一〇年九月號

題目の下の数字は年號、號數を示す

柴田勝家の産業治國	三の一
三國地方の史蹟と名所	四の七
橋本景岳先生を追慕して	四の一〇
馬に關する人物傳	五の二
古記録に残る神明社と足羽社	五の五
南越百人一首	五の七、八、九
松平春嶽と柳河春三	五の一
謡曲に現はれた越前と若狹	六の二、三
越前隱遁の藤房卿	六の六、七
美術の語源を作つた岡倉倉先生	六の九
藩政時代より明治中期までの文學	六の一
實修の傑僧田中佛心和尙を偲ぶ	七の二
布川正沖の白嶺百吟	七の四
越前三國焼に就て	七の二
福井出身の名優片岡我久藏	七の八
美濃部伊織夫婦物語	四の三
氣比神宮大鳥居と本殿	四の八
御慶尾のしようべん佛	四の一
福井藩時代の三月行事	五の三
五皇神社參拜記	五の一〇
越前に來遊した加賀の千代	五の九
繼體天皇の御事蹟	六の一
藤島神社遷座當時の追憶	六の五
妙好人とたいへられし若越信仰物語	六の八
景岳先生の墓前祭	六の一〇
架替へられた九十九橋の常夜燈	七の一
安政記事抄錄	七の三
木芽峠越	七の六、七、八
櫻陰窟談に就て	八の三
明治天皇の御巡幸を偲ぶ	八の一〇

若狹の義民松木莊左衛門  
奇人「小文法師」  
越前四箇木山巡覽記  
日本美術の恩師岡倉天心

九の一  
九の四  
九の七  
一〇の三

越前濱坂浦の筆草  
福井の名看板と店飾  
勝家の石塔と山城守  
國寶則重太刀物語  
國寶三十雷神の兜  
故杉田鶴山翁秘話  
曙覽以來の月並歌會  
福井城内御手植松の歴史

四の九  
四の一  
五の一  
五の四  
六の一  
八の七  
七の八  
八の一

我が橋本左内の一面觀  
福井藩における散田百姓  
若越の湧泉傳説考  
布久瀨神社祭儀記  
娘媛と越前國

五の一  
六の三  
七の八  
七の一〇  
四の八

奇人魚樂亭  
彫刻家山田鬼齋の事共  
田中大秀翁の遺蹟を尋ねて  
思ひ出深き福井縣史談

九の二  
九の六  
一〇の一

移り行く福井の古蹟物語  
福井城壁紋様の數々  
左儀長馬威しの起原  
吉崎雜話  
故松平康莊侯爵の逸話  
福井地發展と不淨地  
歌聖橋曙覽の藁屋  
反古に包まれた郷土資料

四の一〇  
四の二  
五の二  
五の一〇  
六の二  
七の一  
七の二  
九の六、七、八

義民喜三郎  
福井地方の傳説と神名  
敦賀の産屋に就て  
以上島崎圭一  
以上二宮正彰

五の一〇、一一  
六の八  
七の九

池田の王神日蓮宮神社	五の二、三	以上 林 士宜	
證誠寺本山の舊蹟を訪ふ	六の六	歌人 證誠寺 東 溪	六の七
親鸞道場の考察	六の八、三	以上 伴 宗孝	
石徹白の山村誌	六の一〇	以上 松村 末吉	
若越郷賢祠創建について	七の二	泰澄大師の恩徳	八の四
橋本左内先生の光榮	九の一	新田義貞公と其遺蹟	九の三
油屋お紺と福井の墓地について	七の三	越前に縁ある芝居	七の四
福井より江戸まで所浮名の旅	八の四	若越雜讀字名雷附	九の二
東尋坊自殺の元祖	九の九	以上 生駒 正三	
柚山城の旗擧と環境の疑問	七の四	郷土史料としての修驗道	七の一〇
武生人物時代別一覽	七の八	以上 赤松 知榮	
福井藩士俸祿番附五百石以上嘉永六	七の一〇	敦賀縣官員錄	一〇の九
僧 大道の事蹟	八の四	以上 石橋 重吉	
大屋村の養老田制度調査	八の六、七、八	三里濱と僧大道	八の二
神秘の寶珠と瀧谷寺の由來	八の一〇	浦見坂開墾後日譚	八の五
		以上 有賀ひで緒	
		以上 杉本 英壽	
		三國湊股販の回顧	九の三
		以上 奥田 重三	

越前の郷土玩具に就て	九の四、五	以上 内島 玉峰
軍神佐久間艇長の思出	九の五	以上 青池大右衛門
古典的な福井方言に就て	九の九	以上 乾 晋之助
若越における「ゆひ」の遺存	九の九	以上 杉本伊達美
福井藩御殿醫師大鑑	一〇の五	

福井評論 二二八 福井評論社

自大正一四年一月  
至昭和一〇年八月

大正一四年第一卷——昭和一〇年第一一巻、題目の下の數字は巻、號を示す

舊藩時代馬おどしの	二の一	越前藩の正月	三の一
越前の名人奇人	二の三、四、五、七、八、一〇	以上 廣坂 姫水	
越前の瀑めぐり	二の八	蓮如上人ま 越前	二の六
日下部太郎傳 同追補	三の二、四	足羽山の名所と史蹟	二の二一、一二
吉崎浦の八景	四の八	福井市在名士掃苔記	三の五、六、七、一〇
少年及修學時代の橋本左内	四の一〇	夏の毫攝寺詣	四の九
狂歌の名人 栲谷半月	五の三	新田義貞公の墓を弔ふ	四の一
丸岡藩の砲臺跡について	五の七	お早了作心中物語	五の五
知られて居ない景岳先生の事蹟	五の一〇	梅田雲嶺先生を偲びて	五の八、六
		霞ヶ城の歴史と傳説	五の一

福井藩時代の馬術とその傳説	六の一
孤雲懷英禪師之傳	六の五
井關園次の事蹟	六の一〇
下岬浦人の漂流異國譚	七の六、七、八
福井の按摩鍼術史的考察	八の五
神明祭の大名行列譚	九の六
六十一年前の郷土の重要記事	一〇の一
曙覽と夏彦	二の五
越前と芭蕉翁	二の六
福井における俳家文藝の來歴	二の八
グリフイスの著書を讀みて	二の一
今古越前奇聞譚	二の一
岩佐又兵衛と福井	三の二、四
萬葉集に歌はれた若越	四の八、一〇
舊幕府に載つた日下部太郎	六の一
勝山の左儀長祭	三の二

帝都銀座に殘る由利公正の功績	六の四
常濟大師	六の九
常濟大師誕生地の研究	七の二
日本國畫の著者瓜生寅先生について	七の九
淨得寺の國寶屏風について	八の七
キリシタンの墓碑	九の一
雪爪禪師と椋栗山房	一一の一
以上 山下 與平	
車道場復興について	六の一、二、七の一
以上 山田 秋甫	
以上 富岡 木鐸	
雲濤漫筆 其十	二の一〇
以上 山本 騰	
以上 北小路恒彦	
橋曙覽の墓に詣つ	三の二、四の一
ハルリ來航と越前藩	五の九、一〇、一一、一二、六の二、五
福井藩農民騒動史序説	七の三
以上 島崎 圭一	
以上 島田 江東	

三四

大野の篠座神社	三の四
西鶴の越前置土産	三の一
藩札の話	四の一、二、三、四、六、九
松平春嶽と橋本左内	四の一
梅田雲濱(講談)	四の三、四
志田野坡覺書	四の六
足羽山に在りし藥師堂について	四の七
法曹界の巨尾高橋捨六君の事ども	四の二〇、一一
大野淑人翁直話	五の二〇、一一、一二
有朋録(秋時憲墓、忠直卿墓)	七の八、九
笠原白翁の牛痘問答	八の一
中根雪江の昨夢紀事	八の三
福井に於ける新聞の始め	九の四
橋曙覽先生の楠公の歌幅	九の六
恩師富田鷗波先生を偲ぶ	九の八
曙覽と蓮月尼	一〇の一〇、一一
松平春嶽公の獨樂吟	一一の二
松井耕雪の追懷	四の八
おきな宿	四の二二、五の一

以上 猪島 春樹	
以上 古河 清	
以上 谷永 一四	
以上 伊藤 編遊	
以上 中村 兵衛	
以上 翠屋 主人	
法曹界の巨尾長谷川翁君	四の九
日下部太郎 同追録	五の八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇
武藏野の春清寺と勝淵明神社	七の四
松平忠直卿遺骨改葬の傳	七の一〇
芳賀博士を偲ぶ	八の二
三社大明神参拜の記	八の五
岡田静眠翁(岡田大將祖父)	九の五、六
岡田静眠翁と栗田部の郷學	九の七
橋曙覽翁の奥墓	一〇の八、九
橋曙覽翁の櫛の齋に就いて	一一の一
以上 永井 環	
氣比の松原	四の一〇
山田正秋翁畧傳	五の五

三五

福井城址 四の一、二、五の一、二  
 福井の方言 六の四、五、六、七、八、九、一〇、二  
 生祠木立神社 七の七  
 越前國內火事曆 七の一、二、八の一  
 黒船騒ぎ福井藩の海岸防備 九の二、三  
 春嶽公と参観交代 二の六、七  
 平泉寺楠正成墓に就きて 四の一  
 越前家に崇つた子々姫 五の二、三、四、五、六、七  
 左内先生と教育事業 五の一  
 武周池大蛇の傳説 五の五、六  
 佐々木信綱博士と福井 五の六  
 景岳先生 五の九、一〇  
 景岳先生 五の九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六  
 足羽郡巡遊記 五の九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六  
 越前に於ける見真大師の舊蹟 六の一〇、二、二二  
 由利公正と西郷 六の五

御一新と春嶽公の苦心談 六の一  
 福井方言に就ての考察 七の二、四  
 斬ぎり騒動 七の五、七  
 横越本山の開基について 八の一〇  
 廢藩後の士族の授産状態 九の七  
 以上 徳山國三郎  
 以上 五十嵐菊雨  
 以上 白雲居士  
 松平春嶽と育英 九の六  
 以上 巖賀 貞  
 以上 佐々木條助  
 以上 藤田 貞造  
 以上 八田祐二郎  
 以上 三宅 雪嶺  
 勝縁寺由緒と東尋坊 六の八  
 親鸞聖人御舊蹟めぐり 九の六  
 以上 吉村 自然  
 杉田定一は明治の佐倉宗五郎 六の六

泉邸夜話 六の九、一〇、二、三、七の一、二、三、五、六  
 松平春嶽公を偲び奉る 六の一〇  
 福井縣の郷土玩具 七の一  
 丸岡 騒動記 七の四、五、六  
 結城秀康と本多富正 八の三  
 明治大帝の北陸御巡幸 七の八  
 耕雲齋の墳墓 七の六  
 一宿驛の昔語り(中山文書) 七の六  
 越前藩に於ける憲政思想 七の九  
 若州の少年政治家松木長操 七の二  
 岡倉天心先生に就て 八の一  
 宅良の山里 八の六  
 栗田部郷學の恩人三寺三作翁 八の五、六  
 哥川餘聞 九の一  
 世界圖屏風考 八の八、九、一〇

新田公を害せる古傳古記 以上 白柳 秀湖 一〇の二  
 以上 寺田 慶胤  
 以上 白井光太郎  
 能面藝術と越前 以上 根尾 謙兒 七の二  
 實生袖と奉書袖 以上 白山 莊主 八の一  
 以上 中山 義樹  
 以上 金澤 繁一  
 以上 六々庵主人  
 以上 尾佐竹 猛  
 以上 山田 直江  
 以上 溝口禎次郎  
 以上 吉田 健三  
 墓碑研究に關する文獻 八の八  
 大太刀使ひの眞柄十郎左衛門 一〇の九  
 以上 石橋 重吉  
 福井藩學 明道館 九の六  
 三七



南越聞人墨影	八の九、二〇、二二、三三、九の二、三、四、五、六、七	以上 菅田 伊人	
浦見坂及嵯峨山掘鑿隧道工事	八の二一、一二	以上 井上 一	
景岳先生を憶ふ	八の二二	以上 杉本 英壽	
郷土みやげケンケラの由來話	八の七	以上 加藤 寛治	
明里用水に關する紛争	九の二、二	橋曙覽翁と私	九の一
三里濱植林史誌	九の一	以上 菱川 師福	
秀康公の誕生について	九の一	以上 廣松健二郎	
解藤圖賦に就て	九の五	若越の土地割替制度	九の四、五、六
福井温故帖について	一〇の七	以上 三木 映夫	
若越農政史	九の九、一〇、一一、一二	以上 丁々 老人	
藩政時代の趣法講に就て	九の九	安藤精軒畧傳	一〇の二
福井諸曲の今昔と能の起原	一〇の一、二、三	以上 玄々子	
油屋おこんと貢	一〇の三	曙覽翁歿後の正玄家	一〇の八
丹羽長秀榮華の夢	一〇の五	以上 生駒 正三	
喰はされた忠直卿	一〇の七	以上 永田 齋	
		異説北莊落城の餘燭	一〇の四
		幽霊行列と漆ヶ淵の主	一〇の六
		一國女忠直卿亂行	一〇の八

狛伊勢守奥方の奇智と豪勇	一〇の九	水葉落神明社境内で由井正雪の奇瑞	一〇の一〇
神明社猫塚の由來	一〇の一	杉田壹岐の直諫	一〇の二
春壽野王壺萬歳	一一の一	吉原虎徹の由來	一一の二
小栗美濃の生首諫言	一一の三	東尋坊の由來	一一の四
三千万兩の大氣焰	一一の五	漆ヶ淵の怪異	一一の七
		以上 籠 松影	
北陸鐵道論 若越叢書第二輯	一〇の七	越前名家名彙	一〇の二一、二二、一一の二、三
越前國俳詩史要	二の八	以上 石川銀榮子	
福井藩士談大鑑 三百石以上	一一の二	越前故名畫家番組	一一の四
忠臣新田義貞公遺跡	一一の五	以上 宮川 佐八	

第一輯 増訂表

- 一三頁 音韻新書の下に「折一帖」と追記す
- 二〇 松蟲の音 天保五の次に「寛政七」と追記す
- 二八 初蟬集「一説風國撰 元祿九年九月」と追記す
- 同 和便集「初便一説筑前知方並未摺撰元祿十五年正月」と増訂す
- 三四 氣比のさゞ波 地誌敦賀郡の部に入る
- 三八 同字を削る
- 三九 マルコポーロ紀行「七十歳譯補博文館」と追記す
- 同 三日遊草の下に「大正四」と追記す
- 四一 蘭學事始「若越醫談 明治三九、四〇、四一年號」と追記す
- 四二 梅園笑話「稿本二一 地方別に史蹟史實人物等を論斷したるもの」と増訂す
- 四四 伊藤坦庵集「坦庵文集 十卷五本元祿頃」と増訂す
- 四五 道雅上人文集「道雅上人詩文集 一 和田幽玄 昭和七」と増訂す
- 四六 横井小楠文「民友社發行」を追記し次行の「同」字を「伊藤錦里」と入替す
- 四七 日本啄物詩「安永五」と訂正す
- 同 北陸遊稿「下卷に三國福井大野勝山敦賀等の詩あり」と追記す
- 五二 箏曲秘譜 冊數一
- 五七 袖目金「慶長五より元文六まで百四十二年間の藩史資料」と追記す

- 六〇 續再夢紀事「大正一一又昭和三再版」と増訂す
- 七七 奉思錄「權左衛門、秀康公二百五十年忌に春嶽公の命による官撰の奉先思孝錄公の序眞齋の跋あり」と増訂す
- 八〇 笑草「著者安政投獄の紀事」と追記す
- 同 三國丈夫 三岡と訂正す
- 八一 北陸の偉人大和田翁「同九訂正増補」と追記す
- 同 橋本左内「明治四二」と増訂す
- 八六 杉川玄白先生贈位祝賀會記事「一、富士川游若越醫談明治四一年號」と追記す
- 八八 福井縣管内地誌畧「同一七再版」と追記す
- 九二 越前地理指南「貞享二」と追記す
- 九三 越前地誌畧「明治十一年七月改正増補」と追記す
- 九七 粗糲 糲糲と訂正す
- 一〇九 詩代 時代と訂正す
- 一一八 若越醫談「二七 明治三八一昭和九」と増訂す

福井縣郷土書目 第二輯終

昭和十年十月一日印刷  
昭和十年十月五日發行

—(非賣品)—

福井市立福井圖書館內

著作兼 發行者 石橋重吉

福井市佐佳枝中町二四二

印刷人 和久本金治

福井市佐佳枝中町二四二

印刷所 大正印刷社

318  
584

終